

1. 交流部門報告 (2018年4月～2019年3月)

バハウ サイモン ピーター
副島 健治

1 はじめに

富山大学留学生センター(1999年4月1日設置)が発展的に解消して、2013年10月1日に国際交流センターと名称を変え、従前の留学生センターの富山大学に在籍する外国人留学生に対する日本語教育、日本での生活と修学に関わる指導に加えて、外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生を海外に送り出すことなど、その役割や機能、特に専任教員の業務は大きく拡大した。そして、2018年4月の改革によって、現在の「国際機構」となり現在に至っている。

本報では、2018年4月～2019年3月における交流部門に関わる報告をする。

2 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言、および富山大学の学生の海外留学にかかる支援

コンサルテーションアワーを毎週火曜日と木曜日に設定し、富山大学で学ぶ外国人留学生、海外留学を目指す学生への指導・助言を機構教員が行った。また、設定した日以外においても、学生の事情を考慮し相談を受けた。相談内容によって、必要があれば、各学部、留学支援課や学生支援課の「学生相談窓口」等と連携して対処した。

相談者数は125人で、面談の件数はのべ255件であった。255件の内訳は、外国人留学生に対する指導・助言(55件)、日本人学生に対する指導・助言(181件)、その他(富山大学教職員、卒業生、地域住民等から)の相談への指導・助言(19件)であった。

海外留学相談については、機構棟1階の「談話室」に資料を置いて海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに、海外への留学を希望する学生の相談にのっている。

海外留学を希望する学生の相談における主な希望留学先は、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド、フィンランド、スイス、フランス、オランダ、タイ、フィリピン、マレーシア、韓国、台湾、中国、南アフリカ共和国等であった。

相談者の内訳は以下の通りである。

相談者数：126人

(内訳) 人文学部(48人)、人間発達科学部(15人)、経済学部(19人)、理学部(11人)、工学部(10人)、理工学教育部(9人)、医学薬学教育部(14人)

3 異文化間理解教育にかかる活動および外国人留学生と日本人学生の交流推進にかかる活動

(1) スタディ・エクスカージョン

国際機構が主催して、毎学期、日本文化あるいは富山の文化への理解を深めるとともに外国人留学生と日本人学生との交流をはかる目的で、県内の文化施設等を見学するスタディ・エクスカージョンを実施している。2018年度は、以下の通りである。

・前期のスタディ・エクスカージョン

<実施日・見学場所>

2018年4月20日(金) 天気：晴れ

砺波チューリップ公園

移動手段：バス

<参加者数>

外国人留学生	28人	
日本人学生	4人	
教職員	6人	合計：38人

<実施日・見学場所>

2018年5月18日（金） 天気：晴れ
富山市民俗民芸村
移動手段：バス

<参加者数>

外国人留学生	4人	
日本人学生	2人	
教職員	2人	合計：8人



2018年5月18日（金）（富山市民俗民芸村にて）

・後期のスタディ・エクサカーション

<実施日・見学場所>

2018年11月22日（木） 天気：雨
富山市民俗民芸村
移動手段：バス

<参加者数>

外国人留学生	8人	
日本人学生	1人	
教職員	2人	合計：11人



2018年11月2日（木）（富山市民俗民芸村にて）

砺波チューリップ公園へのエクサカーションには、主にチューリップ花卉栽培とゆかりの深いオランダのライデン大学からの留学生たちをはじめとして多くの留学生たちが参加した。

富山市民俗民芸村へのエクサカーションでは、施設のボランティアの方の案内（説明）を受けることができることがあり、2018年度は2回とも案内していただくことができた。参加者数は、その時の大学の授業や他のイベントの実施と重なるなどした場合は少なくなってしまうが、2018年度の富山市民俗民芸村へのスタディ・エクサカーションのように、参加者数が少ないときは少ないなりに、案内の方の説明を間近に聞いて質問したりすることができ、中身の濃いものとなった。また、エクサカーションでは、出来るだけ日本人学生と外国人留学生が交流しやすい友好的な雰囲気大切にされた。

スタディ・エクサカーション実施後にアンケートを実施したが、アンケートの結果を見ると、「とても楽しかった」「また参加したい」などの感想が多く、「不満」と答えた者はゼロであった。また「他に行きたいところ」として立山などを提案する意見も見られた。

(2) ホームビジットとホームステイ

国際機構では、日本語研修コースで学ぶ研修留学生を対象として、異文化体験学習の一環として、日本の家庭に滞在するホームビジット（日帰り）またはホームステイ（1泊2日）を実施している。2018年度は、6月2日（土）-3日（日）に射水市のご家庭でホームステイが実施できた。

(3) 外国人留学生と日本人学生の交流のためのパーティー

国際機構棟1階の談話室は外国人留学生と日本人学生が休み時間に昼食を食べながら語り合うなど、日常的な交流の場となっている。加えて、外国人留学生のサポートを活動の目的とする大学の学生サークル「パートナーズ」(後掲)が、日本人学生との交流のために下のような「交流会」を企画し実施した。

<日時・参加者数>

2018年 4月25日(水)15:30～17:30	Welcome Party	参加人数:45人
2018年 6月27日(水)15:30～17:30	Farewell Party	参加人数:25人
2018年 10月24日(水)15:30～18:00	Welcome Party	参加人数:40人
2018年 12月19日(水)15:30～18:00	クリスマス Party	参加人数:35人

4 関係団体との連携と協力

(1) 地域における各種行事への協力

県内の教育機関で行われている異文化理解教育や自治体や公的機関等が主催する国際交流行事、地域の各種団体等が主催するその他の行事等において、その要請に基づき、講演や参加依頼・協力依頼があった場合は、教員あるいは留学生が協力をしている。

2018年度国際機構教員が直接参加した主な外部団体の国際交流行事

国際交流行事	期日	主催団体	内容
国際交流フェスティバル	11月11日(日)	富山市民国際交流協会	参加
新年交流会	2019年1月20日(日)	富山市民国際交流協会	参加

学生の参加協力した国際交流団体および行事内容については、本誌の「2018年度外国人留学生と地域との交流状況」を参照されたい。

(2) 関係団体等との連携

国際機構と関係諸団体との連携と協力の関係は大変重要であり、そのような意味において、必要に応じて適宜情報交換している。

5 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留学生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案内を国際機構棟1階の談話室に掲示している。

6 オリエンテーション

(1) 新規来日新入留学生のためのオリエンテーション

学部、総合情報基盤センター、国際部留学支援課、学務部学生支援課等の協力により、各学部のオリエンテーションとは別に、新規来日留学生のためのオリエンテーションを実施した。学部新入留学生だけではなく、大学院留学生、さらに在學生で過去に本オリエンテーションに参加していない外国人留学生も対象とした。

[前期]

<実施日時・場所>

日時:2018年4月3日(火)9:30～(部局ごとに終了)

場所：(五福キャンパス) 共通教育棟D 11 教室
(杉谷キャンパス) 看護学科研究棟 11 教室
(高岡キャンパス) B 1 棟 116 教室

<対象者>

2018年4月入学新入外国人留学生(非正規生含む全員)

※ただし、過去にオリエンテーションに参加した学生(内部進学者等)を除く。
在学生在で、過去にオリエンテーションに参加していない外国人留学生も対象。

<参加者>

学部生： 27人(うち11人は非正規生)

大学院生： 41人(うち8人は非正規生) 計： 68人

<オリエンテーションの主な内容>

<全体> 9:30～10:50

- 1) 生活上の留意事項について(国際機構)
- 2) コンピュータ・ネットワークの不正利用, 知的財産等の取扱いについて
(総合情報基盤センター)
- 3) 学生相談窓口について(学生支援センター)
- 4) 授業料納入, 授業料免除制度, 学研災等について(学務部学生支援課)
- 5) 各種奨学金, 国民健康保険料補助申請について(国際部留学支援課)
- 6) その他

<学部ごと> 10:50～12:00

[後期]

<実施日時・場所>

日時：2018年10月17日(水) 16:30～(部局ごとに終了)

場所：(五福キャンパス) 共通教育棟D 11
(杉谷キャンパス) 看護学科研究棟 11 教室

<対象者>

2018年10月入学新入外国人留学生(非正規生含む全員)

※ただし、過去にオリエンテーションに参加した学生(内部進学者等)を除く。
在学生在で、過去にオリエンテーションに参加していない外国人留学生も対象。

<参加者>

学部生： 41人(うち40人は非正規生)

大学院生： 36人(うち8人は非正規生) 計： 77人

<オリエンテーションの主な内容>

内容は前期のオリエンテーションとほぼ同様。

(2) 学部新入生のための時間割作成オリエンテーション

入学後間もない学部新入留学生のために、時間割作成の支援として、学部ごとの先輩の留学生が各新入留学生に履修の仕方を個別にアドバイスするという形式でオリエンテーションを実施した。

<実施日・場所>

2018年4月6日(金) 17:30～19:00 共通教育棟1階 C11 教室

<対象者>

学部に新入学した留学生

<参加者数>

新入留学生 12人, 協力した先輩留学生 13人 (計: 25人)

7 日本人学生の留学に関する啓発にかかる活動

(1) 「留学のための教養講座」開講

2015年度においては、海外留学を目指している富山大学の学生を対象として、国際交流センター(当時)主催の夏季セミナーを2回開催し海外への留学の啓蒙をはかった。その実績を踏まえ、2016年度、2017年度に教養教育のコロキアム科目(水曜日3限目, 単位は出ない)として「留学のための教養講座」を開講した。2018年度前期においてもコロキアム科目「留学のための教養講座」を実施し、後期には国際機構の交流部門の講座として国際機構棟2階の講義室3において「留学のための教養講座」(水曜3限)、「多文化交流活動講座」(水曜4限)を開講した(いずれも単位は出ない)。講師は国際機構の交流部門教員が担当し、受講者数は、前期5人、後期5人であった。

(2) 人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」

2016年度、2017年度に続き、2018年度も後期において人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」(コーディネータ: 人間発達科学部 橋爪和夫教授)の講義を国際機構の教員が担当した。時期は冬休みから1月にかけての集中講義とした。

講義内容は平成30年度のシラバスに詳しいが、いずれもグローバル人材育成に視点を置いた「日本(語)文化」「留学」「異文化理解」をキーワードにしたものであった。また、「国際交流活動論」においては、特に卒業後、初等・中等教育に携わる可能性のある学生が多かったため、昨今の教育現場に外国人子弟が少なくないという状況を鑑みて、日本語教育の視点から講義する部分も多かった。

「国際交流活動論」の受講者数および内訳は以下の通りである。

27人(全員が人間発達科学部の学生であった。)

学年内訳: 4年生(13人), 3年生(4人), 2年生(10人)

8 その他

(1) 国際交流の学生団体への助言

富山大学の国際交流の学生団体(名称「Partners」)の活動への助言を行った。

9 おわりに

国際機構は、その役割を果たすために本学の関係者をはじめとして、学外の諸団体、地域の方々の温かい理解と協力、多大な支援を頂いており、そのことについて、まずはこの誌面を借りて篤く感謝の意を表したい。

また、冒頭に述べたが、1999年4月に設置された富山大学の留学生センターは、大学の組織改革により発展的に解消し、2013年10月に国際交流センターとなり、さらに2018年4月に全学的機能拡充のため国際機構と名称を改めた。留学生センターと呼ばれていた時期の従来の役割だけでなく、富山大学の学生の海外への送り出し、外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流など、さらには全学的意味においての大学の国際戦略の中心的役割を担うものとして位置付けられた。今後の国際機構に課せられたミッションは大変重いと言える。ただし、配置教員数は従前のままで予算的にも漸減傾向にあり、その役割を果たすための課題も見えてきている。限られた人材で限られた予算等と向き合いながら、富山大学のグローバル化を見据え、未来に向かって全学的な見地から地道な努力をしていかなければならないといえる。